

令和5年9月定例会

1.教育行政について

- (1)学校給食費の公会計化について
- (2)学校給食調理場のセンター化に伴う課題について
- (3)学校における働き方改革について
- (4)教員不足について
- (5)ICT支援員の活用について

2.ヤングケアラーの支援推進について

3.デジタル図書館について

4.中央斎場整備事業について

- (1)新中央斎場の供用開始について
- (2)児島斎場、真備斎場の廃止について

5.デジタル田園都市国家構想推進事業について

- (1)デジタル田園都市国家構想推進事業について
- (2)地域ポータルアプリの利便性向上について



1.教育行政について

(1)学校給食費の公会計化について

Q 国においているいろいろな動きがある中で、本市において学校給食の公会計化の取組を進めていく考えはないのか。

A 教育次長
令和元年7月、文部科学省から学校給食費等の徴収に関する公会計化等の推進についてが通知され、学校の働き方改革が強く求められる中、学校給食費等の徴収については、基本的に学校以外が担う業務と位置づけられ、公会計化及び地方公共団体が担うべきとされた。
倉敷市教育委員会においては、令和2年12月に学校給食費公会計化検討委員会を設置して、公会計化の実務についての現状把握と課題整理を行い、公会計の導入に当たって、徴収管理システムの構築や専任職員の配置などの課題もあるため、引き続き検討していた。
一方、本市の学校現場においては、教職員の長時間勤務の状況は解消されておらず、その要因として、登下校に関する対応や学校給食費を含む学校徴収金の徴収、管理など、文部科学省による学校以外が担うべき業務を教職員が実施していることが上げられ、特に学校給食費については、集金状況の把握、督促など多岐にわたる業務があり、これらの業務について、教職員が負担を感じている状況にある。
こうした中、令和5年8月31日、文部科学省から学校給食費の徴収・管理に係る公会計化等の推進についてが発出され、学校給食費については、公会計化及び地方公共団体による徴収を基本とすべきと通知された。
学校における働き方改革等を進める観点から、学校給食費の公会計化について、今後導入する方向で検討する。

4.中央斎場整備事業について

(1)新中央斎場の供用開始について

Q 倉敷市中央斎場施設整備基本計画では、令和6年度当初の供用開始が見込まれているが、現在の進捗状況と供用開始に向けての周知方法を伺う。

A 市長
新中央斎場は、現施設を稼働しながら同一施設内に建て替え、令和6年4月1日に供用開始。

(2)児島斎場、真備斎場の廃止について

Q 中央斎場建て替え後、児島斎場、真備斎場は、老朽化に伴い、段階的に廃止すると思う。いつ頃の廃止を予定しているのか。また、市民や葬祭業者などへの周知はどのように行うのか。

A 環境リサイクル局長
現在市内に4つある斎場は、中央と玉島の2つに集約化する。
児島と真備の斎場は、中央斎場の施設整備に活用した事業債の要件で、令和10年度末までの解体完了が必要。具体的な廃止時期は今後検討する。

令和5年12月定例会

1.こどもまんなか応援サポーター宣言に伴うこどもファスト・トラックの導入について

2.「乗って応援！お得におでかけ路線バス・臨鉄無料デー」の利用状況及び今後の取り組みについて

3.水島地区のまちづくりについて

- (1)水島地区公共施設再編整備事業の整備場所について
- (2)水島中央公園周辺や栄駅周辺の整備について
- (3)今後の取組について

4.倉敷市障がい者移動支援事業について

5.教育行政について

- (1)岡山型スクールローヤーについて
- (2)学校と教育委員会等との連携協働について
- (3)学校における働き方改革の実効性の向上等について

2.「乗って応援！お得におでかけ路線バス・臨鉄無料デー」の利用状況及び今後の取り組みについて

Q 倉敷市で実施した「乗って応援！お得におでかけ路線バス・臨鉄無料デー」における乗降客の利用状況、倉敷市などの主催イベントとの相乗効果、アンケート結果、今後の取組について、本市としての考えは。



A 市長
令和5年度の「乗って応援！お得におでかけ路線バス・臨鉄無料デー」については、9月から11月までにかけて、昨年度は4回であったが、今年度は6回に増やして実施した。
その状況は、延べ8万1,948人の方に御利用いただいた。普段の約1.8倍から2.4倍の利用だった。
現在、利用者アンケートの集計中で、その結果、それから無料デー当日に開催されたイベントとの相乗効果などについても分析を行っていく。
今後について、これらの結果や、交通事業者、地域公共交通会議での御意見などを踏まえながら、利用促進策の検討を行う。

3.水島地区のまちづくりについて

(2)水島中央公園周辺や栄駅周辺の整備について

Q 栄駅周辺や水島中央公園周辺を回遊拠点として整備してはどうか。

A 水島図書館跡地や栄駅周辺の公園などの活用も検討する
建設局長
水島地域でのまちづくりでは、新たに整備を検討している複合施設と、水島中央公園や栄・常盤駅を結んだエリアの回遊を促進し、にぎわい創出につなげる。
このため、中央公園隣接の水島図書館跡地や、栄駅周辺の公園、駐車場などの活用も検討する。

令和6年6月定例会

1.教育行政について

- (1)岡山県公立小・中学校の働き方改革緊急宣言について
- (2)部活動の地域移行の取り組みについて

2.水島中心地域のまちづくりについて

3.広聴広報活動について

- (1)「倉敷市公式アプリを活用した行政サービスの充実」について
- (2)みらいミーティング事業について

4.選挙行政について

- (1)イオンモール倉敷における期日前投票所の状況について
- (2)高校・大学における期日前投票の取り組みについて
- (3)ネット広告について
- (4)若年層の期日前投票立会人について

5.災害に備えるまちづくりについて

- (1)地区防災計画ならびに個別避難計画の策定について
- (2)水道管耐震化について

6.「夜景のまち」の取り組みについて

7.水道料金の値上げについて

8.人口戦略会議が公表した『令和6年・地方自治体「持続可能性」分析レポート』に基づいた倉敷市における人口戦略について

1.教育行政について

(2)部活動の地域移行の取り組みについて

Q 国は、2023～25年度を「改革推進期間」と位置付けて、部活動の地域移行の早期実現を目指しているが、本市の現状と今後の取り組みについて伺う。
特に、2月議会の代表質問において「部活動支援員を拡充する方向で検討している」と答弁され、今議会に予算計上されているが、その内容について伺う。

A 教育長
部活動の地域移行は、将来のこどもたちのスポーツや文化芸術活動の場の確保と教職員の働き方改革等を目的に実施するものである。
令和5年5月時点で、倉敷市立中学校には運動部310、文化部72、合計382の部活動がある。
部活動を地域移行するには、受け皿となる運営団体や地域クラブ、多くの指導者が必要だが、本市の現状では不足していると認識している。
こうした中、部活動顧問の代わりとなる指導員を増員することは、今後地域クラブを担う指導者の確保へつなぐと考える。
今年度の部活動指導員については、39人を配置しているが、新たに配置が可能となった休日指導員を含めた62人分を本会議に関係予算を計上し、延べ101人分を配置できるように計画している。
今後については、引き続き、スポーツ・文化担当部署と連携しながら、取り組む。

